

「大阿蘇青少年ボランティアリーダー塾」

【主催】 国立阿蘇青少年交流の家

【後援】 熊本県教育委員会

【期間】 (1) ボランティアリーダー研修

平成25年6月15日(土)～6月16日(日) 1泊2日

(2) ボランティアスキルアップ研修

平成25年10月26日(土)～10月27日(日) 1泊2日

【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家

【参加者】 (1) ボランティアリーダー研修

高校生：21名 大学生：15名 一般：6名 合計：42名

(2) ボランティアスキルアップ研修

高校生：9名 大学生：7名 一般：2名 合計：18名

【講師】 日本ボランティア学習協会 代表理事 興梠 寛 氏

国立阿蘇青少年交流の家 研修指導員 田尻 浩昭 氏

1 趣 旨

青少年教育施設におけるボランティア養成研修をとおして、ボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育てるとともに、その充実と普及を図る。



興梠先生の講義

2 目 標



野外調理（ピザ作り）

- (1) ボランティアとしての資質と意欲を高める。
- (2) 救急救命法の技能の向上を図る。
- (3) 自然体験活動の指導法や安全管理を学ぶ。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

① ボランティアリーダー研修 6月15日(土)～6月16日(日)

| | 午 前 | 午 後 | 夜 |
|------|----------------------------|--|------------------------------|
| 1 日目 | ○開会行事 ○講義 「青少年教育の理解」 | ○講義 「ボランティア活動の意義」 ○実習 「救急救命法」 | ○講義 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 |
| 2 日目 | ○実習 「野外調理 ピザ作り」 | ○講義 「青少年教育施設の現状と運営」 | |

② ボランティアスキルアップ研修 10月26日(土)～10月27日(日)

| | 午 前 | 午 後 | 夜 |
|------|--|------------------------------|--------------------|
| 1 日目 | ○開会行事 ○講義 「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」 | ○実習 「みんなの広場 準備」 | ○実習 「みんなの広場 準備」 |
| 2 日目 | ○実習 「みんなの広場」 | ○実習 「みんなの広場 片付け」 ○閉会行事 | |

(2) 目標達成のための工夫

① 日程やプログラムの工夫

ボランティア活動に対する理解を深めるために、ボランティアリーダー研修（基礎編）とボランティアスキルアップ研修（実践編）に分けて実施した。

6月のボランティアリーダー研修では、興梠先生よりボランティアの意義や現状、海外の活動を紹介していただいた。また、救急救命法では、地元の阿蘇消防署（本所研修指導員を兼ねる）から救急救命士を招き、普通救命講習Ⅰを実施した。内容については、基礎的な部分に重点を置きながらも、けが人の搬送法や処置法など実践的な内容を行った。

2日目は、参加者に人気のある野外調理「ピザ作り」を行った。調理を体験することはもちろん、参加者の立場にたって支援するポイントなどを確認しながら進めた。

10月のボランティアスキルアップ研修では、阿蘇青少年交流の家の施設開放事業「みんなの広場」に参加し、事業の準備や片付け、職員との打ち合わせや反省会を体験した。当日は、実際に子どもを案内したり、手助けしたりする場面があり、参加者にとって貴重な体験となった。



② 事後（フォローアップ）研修の充実

10月のボランティアスキルアップ研修後、阿蘇青少年交流の家の事業にボランティアとしての参加するように呼びかけた。ボランティアの主体性や積極性を促すためにも、事業の中にボランティアが企画する内容をそれぞれのプログラムの中に位置づけた。

- 11月：秋のすこやかウォークラリー（チェックポイントでクイズを出す。）
- 12月：ハッピークリスマス in ASO（だしものを考える。）
- 1月：大草原新春たこあげ大会（ファミリー向けのレクリエーションをする。）



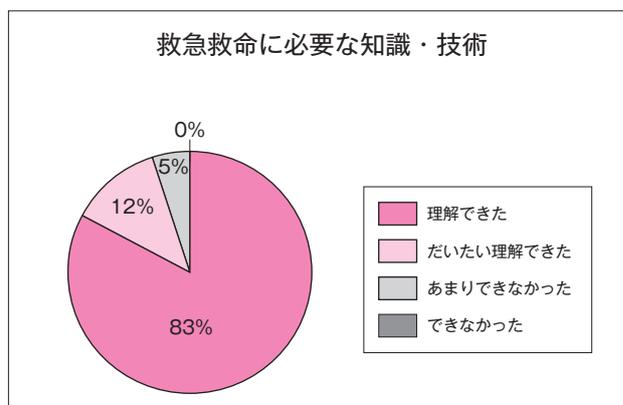
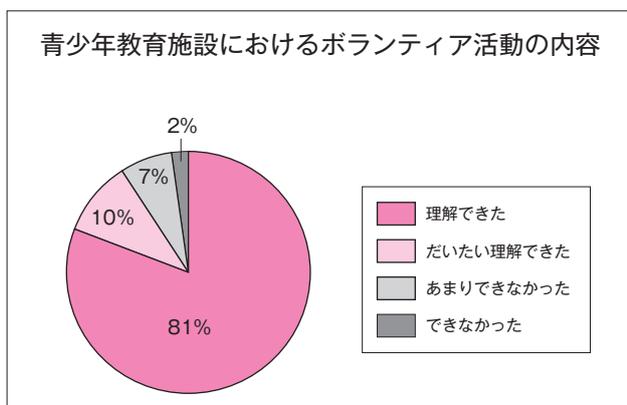
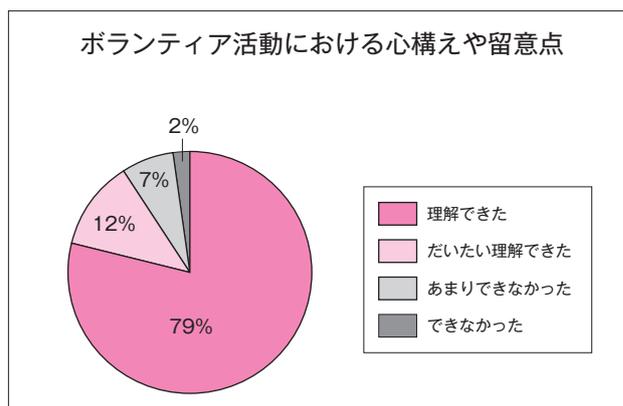
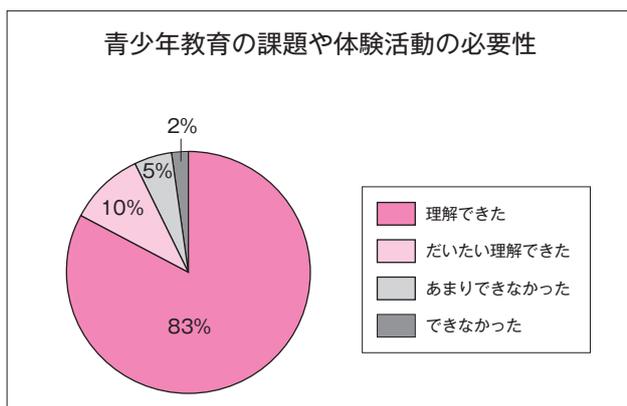
阿蘇青少年交流の家 職員の講義

また、1泊2日のボランティア研修を実施し、プログラム作りや施設での活動（登山・オリエンテーリング・クラフト）を行い、施設の活動を理解してもらうとともに、ボランティアとしての自主性の向上やボランティア同士、職員とのつながりをつくった。

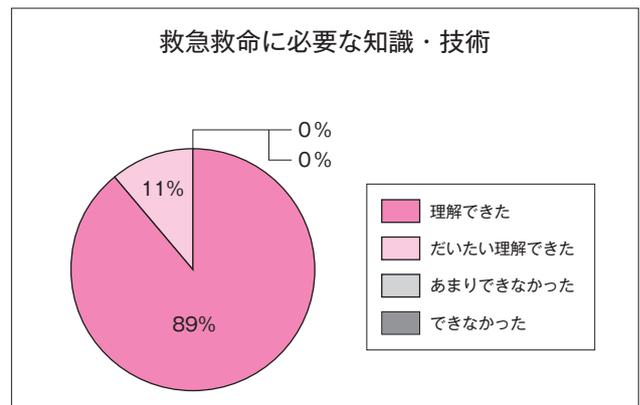
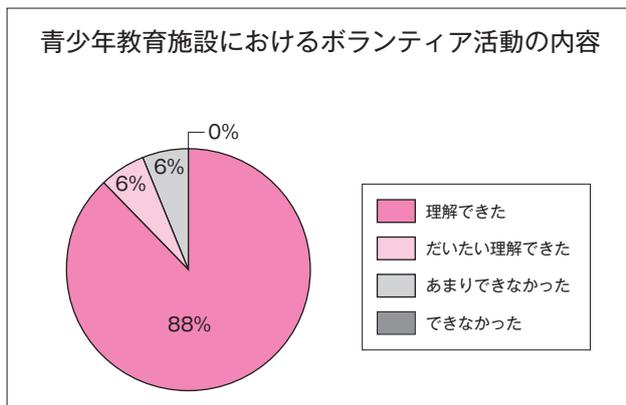
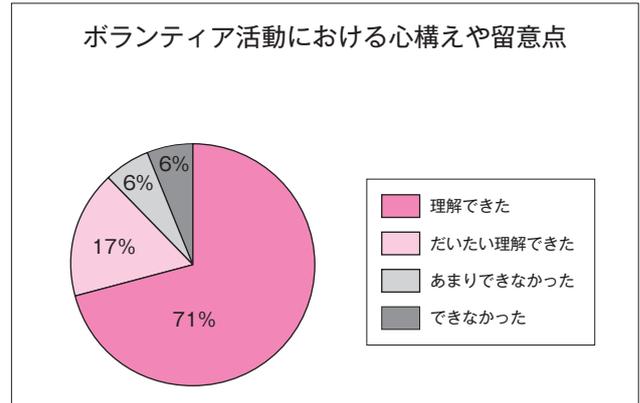
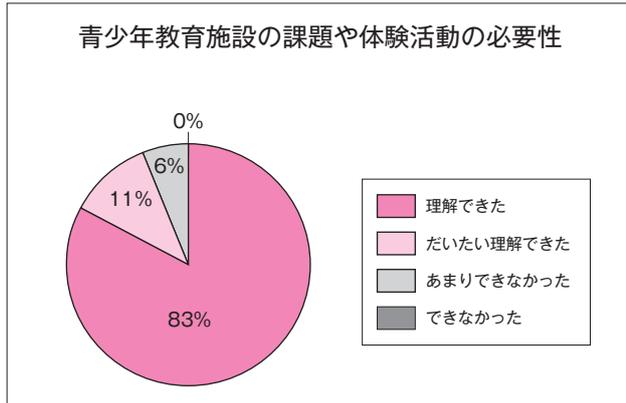
4 結果

アンケート調査の結果は次のとおりである。

(1) ボランティアリーダー研修のアンケート結果（6月）



(2) ボランティアスキルアップ研修のアンケート結果（10月）



【参加者の声】（アンケートより）

- もっといろいろなことを知って広めていきたいです。ボランティア活動をたくさんしたいと思いました。
- 元々、人見知りなので少しでも自分の殻を破られればと思い参加しました。最初は、緊張でがちがちして不安しかなかったけれど、徐々に打ち解けることができました。本当にいい人たちと出会い、様々な体験ができて充実したものになりました。参加してよかったと胸を張って言えます。
- ボランティアの理解が深まった2日間でした。10月の活動を楽しみにしています。
- 講座・活動・宿泊と実りの多い2日間で充実した時間を過ごせました。また、ボランティアに参加したいです。
- ボランティアについていろいろ学べたし、他の人たちと交流できて、皆とても優しく接してくれて嬉しかったです。職員の方も優しくよかったです。
- 講義だけでなく、その知識を生かして実践的な体験活動ができたので満足しました。

- 1日目は講義ばかりでつらかったです。
- ピザ以外の野外調理やキャンプファイヤーも習いたいです。



参加者によるワークショップ

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 興梠先生の講義により、ボランティアの意義や役割など基礎・基本の内容を指導することができた。参加者からも、「ボランティアをする上で、何が大切かを考えるきっかけになった」などの感想を得ることができた。
- ② 救急救命法においては、活動中の危機管理やリスクマネジメントについて体験的に学ばせることができた。
- ③ アンケート結果を見ると、ボランティア活動に対する参加者の意欲や心構えが高いことが分かった。また、ボランティアスキルアップ研修を終え、実際にボランティア活動を経験した方が意欲や知識の理解においても伸びが見られた。
- ④ ボランティアスキルアップ研修の実施により、ボランティア活動の実体験を十分な時間をかけて行うことができた。「みんなの広場で、たくさんの参加者とふれあったことで、ボランティアの楽しさややりがいを実感することができた。」という感想もあげられた。



野外調理 (まきわり)

(2) 課題



救急救命法の講義

- ① 参加者のボランティアに対する経験や意欲、知識や技能などの個人差は小さくない。研修内容や指導方法に配慮し、個に応じた指導や声かけ、適切な研修資料の準備など、きめ細やかに行う必要がある。
- ② ボランティアとしての積極性や主体性、今後の阿蘇青少年交流の家でのボランティア活動につなげるために、参加者が主体的にプログラムを企画・運営するようなフォローアップ研修の充実を図っていきたい。
- ③ 地元の大学や高校からの参加者が少なかった。ボランティア活動の意義や楽しさを伝えることはもちろん、広報や募集を工夫していかなければならない。